

書評

PT・OT・STポケットマニュアル

国際医療福祉大学成田病院
リハビリテーションセンター(編)
角田 亘(責任編集)
西田 裕介, 森井 和枝, 後藤 和也,
白砂 寛基, 大森 智裕(編集協力)

A6判・360頁
定価: 3,960円(本体3,600円+税10%)
医学書院刊, 2023年

日々の臨床で悩む療法士や 臨床実習に臨む学生の羅針盤

[評者] 庄本康治 畿央大学

本書『PT・OT・STポケットマニュアル』が発刊されました。ポケットに収まるサイズでありながら広範囲を網羅、かつわかりやすい内容になっています。

I章の「リハビリテーション・プロフェッショナルとしての常識」では、プロフェッショナルとしてのあり方、認知・非認知能力の重要性、診療記録、キャリアパスへの示唆まで論述されています。まさに、新人セラピストが最初に目を通すべき内容だと感じましたし、診療参加型臨床実習に参加中の学生が熟読すべき内容であるとも思いました。II章「リハビリテーション医療の基礎知識」では、ICF、病期ごとのリハビリテーション、リスク管

理、診療報酬システムなどについて論述されています。III章「リハビリテーション評価の基本」では、問診と面接から広範囲の基本的評価について論述されていますが、図表や画像所見も豊富で、大変わかりやすくなっています。IV章「リハビリテーション治療の基本」では、関節可動域訓練やポジショニングなどのベーシックな治療はもちろんですが、エビデンスに基づく最新治療についても簡単に紹介されていて、本書から論文や書籍などの検索に進むことも可能でしょう。V章「疾患ごとのリハビリテーション診療」では、さまざまな疾患に対する推奨治療が多くの図表を使用してコンパクトに論

述されています。VI章「重要評価スケール」では、代表的評価方法がコンパクトにまとめられています。

若手セラピストは、当初はプロフェッショナルとしての覚悟が低い場合が多く、日々の臨床で悩み、問題点を解決し、成長していく経験こそが重要になります。そのため、羅針盤的存在のポケットマニュアルとして本書が大変有効であり、on-the-job trainingの手助けをする一冊となってくれることでしょう。同時に、診療参加型臨床実習に参加される学生さんが、エビデンスに基づいた評価・治療を実践していくにあたり大きな影響を与えることができ得る書籍であることは間違いのないと思います。

